

【重要課題：子どもたち】

道徳科学習指導案

主題名「公正な態度で」〔学指要領：C 公正、公平、社会正義〕

令和〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時 〇〇〇〇教室

人権教育としての授業研究の視点

展開場面において、主人公が審判としてどのように変化したのかを考えさせたことは、公正、公平な態度で接することの大切さに気づき、誰に対しても分け隔てをしないで接しようとする判断力を育てることに有効であったか。

I 主題設定の理由

1 価値観

この内容項目は、民主主義社会の基本である社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞うことに関するものである。小学校中学年の児童は、誰に対しても分け隔てをしないで接することの大切さを理解できるようになる段階である。しかし、ともすると自分の仲間を優先することに終始して、自分の好みで相手に対して不公平な態度で接してしまうことも少なくない。指導に当たっては、不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、そのことが人間関係や集団生活に支障を来したいじめなどにつながることを理解させることが大切である。また、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにすることが重要である。この内容項目は、高学年の「誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。」へと発展していくものである。

2 児童観

(削除)

3 教材観 教材名「良太のはんだん」(出典：小学道徳 ゆたかな心 4年 光文書院)

キックベースボール大会で、良太は光一とあゆ美のチームが対戦する試合の審判をしていた。ある場面で、良太は二人から判定を迫られる。試合をよく見ていなかった良太は、親友だからという理由で光一の味方をしてしまう。しかし、この出来事が気になった良太は、再度判定を迫られた場面で、公正な判定をすることができる。試合後、負けた光一も良太の判断を受け入れ、三人とも試合に満足し笑顔になる。

本教材は、子どもたち一人ひとりが、主人公である良太の行動を自分と重ねて考えることで、不正やごまかしがないことや、誰に対しても同じ基準で正しいことをすることの大切さに気づくことのできる教材である。また、「友達が喜ぶから」という理由で不正やえこひいきすることは、本当の友達といえるのかを考えさせることで、「友情、信頼」についても考えさせることのできる教材である。

4 人権教育とのかかわり

子どもたちの日頃の学校生活を観察していると、いじめ発生の要因には、学級集団のヒエラルキーに起因する公正・公平な判断の欠如があるように思われる。多くの児童は、発言力の強い一部の児童の顔色を窺い、正しいかどうかよりも自分の立場が危うくならないための行動をとりがちである。

子どもたちが、学級としてこの課題を克服するためには、学校生活の中で自分で正しいと思う行動を選択し、たとえそれが間違っただとしてもクラスメートや先生から非難されることなく、認められ、自分の居場所が守られる安心感を積み重ねていく経験が必要である。また、自分が自信をもって正しいと思える行動をすることによる心地よさを感じる経験も積み重ねていく必要がある。

そこで、本授業では、主人公の心の変化について考えることを通して日頃の自身の行動が他者に対して分け隔てなく、公正・公平であるのかどうかを振り返り、どう行動するのが良いことなのかに気づき、判断していけるようにするための機会としたい。

II 本時の学習

1 ねらい

良太が審判としてどう変化したのかを考えることを通して、相手によって態度を変えないで接することの大切さに気づき、誰に対しても分け隔てをしないで接しようとする判断力を育てる。

2 人権教育の視点

【半断力】日常生活においても互いの良さや違いを認め、問題点に気づき、改善し生活を向上させるために、相手によって態度を変えないで接することの大切さについて考える。

3 展開

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童の反応〔S〕	○指導上の留意点 【★ICT活用に関する事項】
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <p>S：立場の強い友達には注意できないのは、良くない。</p> <p>くめあて> 相手によって態度を変えないで接することは、なぜ大切なのか考えよう。</p>	<p>○問題意識をもてるように、事前アンケート結果を電子黒板に提示し、学級の課題点について問いかける。 【★提示】</p>
<p>2 教材文の範読を聞く。(5分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(15分)</p> <p>◎なぜ、良太さんは、親友の光一さんの味方をしないで、あゆ美さんのチームのランナーをセーフにしたのですか。</p> <p>S：注意深くゲームを見ていて、自信があったから。 S：仲が良いことを理由に優先しないようにした。 →公正・公平な判断 S：仲良しを理由に優先すれば不公平になるから。</p> <p>◇自分が良太さんの立場だったら、良太さんと同じような行動が本当にできますか。</p> <p>S：自分是可以る。・ずるは良くないから。 S：自分是可以ない。・友だちに嫌な思いをさせてしまうかもしれない。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて、もう一度考える。(10分)</p> <p>S：みんなが気持ちよく生活できるから。</p>	<p>○教材文の内容が理解しやすいように、範読の前に予め登場人物の関係性を黒板に整理しておく。</p> <p>○光一の得点を認めた良太は、審判として正しい判断をしたのかを考えられるように、なぜ光一の味方をしたのかを問いかける。</p> <p>○相手によって態度を変えないで接することの良さに気づかせるために良太の葛藤に焦点を当て、なぜ親友の味方をしなかったのかを考える。</p> <p>○級友が考える多様な意見を知り、自分の考えに自信をもつことができるようにペアで意見を交流してから自分の考えを書くようにする。</p> <p>○相手によって態度を変えないで接することの大変さについて自分事として捉えて考えるために、「自分だったらできるか」について問いかける。</p> <p>○相手によって態度を変えないで接することの大切さについて考えることができるように、もし、みんなが相手によって態度を変える人ばかりだったらどうなるのかを問いかけ、想像させる。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えなどを振り返る。(10分)</p> <p><振り返り></p> <p>S：友達だからという理由でえこひいきしたり、仲良しではないという理由で進んで手助けしてあげなかったりしたことがあったけど、相手によって態度を変えない方が、自分のためにも周りの友達のためにも良いことなんだと思った。</p>	<p>○本時の学習と照らし合わせて、自分のこれまでの行動が、公正・公平であったかを振り返ることができるように、気づいたことやこれからこうしたいということについて書くよう促す。 【★データの提出・共有】</p>

◆評価の視点

- ・発言、ワークシート、ロイロノートの記述から「だれに対しても分け隔てなく、公正・公平な態度で接することの大切さについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・発言、ワークシート、ロイロノートの記述から「だれに対しても分け隔てなく、公正・公平な態度で接することの大切さについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。